

深い学びにつながる探求型学習とは

対象: 探求型学習やPBL、アクティブラーニングに興味のある教員、教育関係者が学校種の垣根を越えて学びます

会場: 大阪大学 中之島センター
10F 佐治敬三メモリアルホール

生徒や学生が成長する「深い学び」のために何をすればよいのか知る。

模擬授業から深い学びのための課題設定のヒントを得る。

深い学びの実現を裏付ける学びの共同体の理念について学ぶ。

参加費2000円（学生は無料）
（先着200名）

学び教育フォーラムには、小学校の教育者から社会の教育者まで、幅広い層の会員が集まっています。協同的な学び・問題解決型学習(PBL)・アクティブラーニングなどを実践するために、例会やシンポジウムを通じて学んでいます。

生徒・学生たちが真に学ぶことを目指す皆様のご参加をお待ちしております。

日時

2019年12月15日（日）
13:30～17:00

（17:00～18:00交流会を実施します）

模擬授業（13:30～14:30）

『るろうに剣心』から明治維新を読み解く

学び教育フォーラム 理事 丹松 美代志

協同的な学びを進めようとするとき、ジャンプ課題(発展的な課題)をどう設定するかがポイントになります。そもそも、社会科学習は、課題設定と史資料が決め手になります。そこで、我が国の歴史の大きな転換点となる明治維新を題材にして、資料から読み解くジャンプ課題を設定して、参加者のみなさんと共に模擬授業を行いたいと思います。本来、歴史学習は、学習者が史資料を読み解き歴史を物語ることが求められます。マンガ『るろうに剣心』の10数コマから明治維新とは何だったかを探究したいと思います。社会科以外の教科においても発展的な課題の設定の参考になると思います。

特別講演(14:30～16:00)

「今、なぜ、協同的な学び・学びの共同体がもてめられるのか？
～AI・ロボットと共存する時代の中で～」

学習院大学 特任教授 佐藤 学

探究的な学びを追究するアクティブラーニングの根底にあるのは経験主義の哲学である。そのため、学習者が経験を通して学ぶことが重要であり、学習者中心の活動が留意される必要がある。協同的な学びにおいては、単なる学びの手法ではなく、学びの哲学として、教師のポジショニングや学習者の学びの作法の獲得を大事にしている。AI・ロボットと共存し、ビッグデータが活用される時代に入った今こそ、改めて、協同的な学び、学びの共同体とは何か、原点に立ち返って考えてみたい。

振り返り・質疑応答(16:00～16:50)

学んだことを振り返り、さらに深めていきます。

参加者自身の教育活動に具体的にどのように活用できるかを探ります。

参加申込み: manabi.kyoiku.forum@gmail.com 宛に以下の情報を送信ください。

①氏名、②所属、③連絡先E-mail

(携帯のアドレスは極力お控えください)

左記QRコードからも申し込みできます。(推奨)

